

林檎

岩手Mac友の会

Vol. 2, No.1 1990.2.8

Iwate Macintosh Funclub



大忘年会

前号でも簡単に紹介しましたが、大忘年会（別名オールナイト・セミナー）の集合写真ができました。

皆さんの表情を見てください。とっても楽しそうでしょう？そうなんです。この写真は、翌日のセミナー終了後なんですけど、充実感に満ちているように見えますね。実際は1時間も寝ていない人がこの中にはいるのです。

なにしろ前日の福田さんのセミナーから、盛り上がりっぱなしで、夕食後のなんでもQAは、案内役の出番がないほどあちこちで話しの花が咲いて、サロン風になっていました。その混沌は朝まで続き、わたしがダウンした午前4時30分でも、5人以上は残っていました。それでも翌日の8時前に起きて行ったら、民宿のおじさんに「さっき部屋に戻った人がいますから

まだ起きてこないと思いますよ」と言われたときには、午前中のセミナーの開催を心配したものでした。

でも、朝食を食べているうちに、一人二人と増えてきて、セミナーを開始するときには何と全員が揃ってしまいました。

徳富さんのセミナー「EXCEL家計簿」が始まると皆さんの表情は真剣そのもので、とても前日徹夜した人には見えませんでした。

でも、この会場にはMacintoshが12台も集まり、11台のMacintoshに電源が入った情景を想像して見てください。それはとても感動的な光景でした。

これは是非とも、来年（あ、もう今年です）も開催するしかありませんね。今回参加できなかった人は期待してください。自分の体力次第で、好きなだけ参加できる自由な雰囲気はほかではなかなか体験できないと思います。これもMacintoshならではの自由さでしょう。

「日本語Win2入門」のゲラを持ち込んで校正しながらデモをしていたアスキーの方々、珍しい話題を提供していただいたSRAの方本当にありがとうございます。さあて、次回はどなたが参加してくれますか。

林檎1周年

お陰様で、この林檎も1周年を迎えました。無事ここまで来れたもの編集長はじめ編集委員の方々の御努力と、執筆の依頼を快く引き受けてくださった会員の皆さんのお蔭だと感謝致しております。この号では1周年を記念して特集を組んでいます。

この「林檎」が出来るだけ永く続くことを祈っています。今後とも皆さんのご協力をお願いします。

Inside

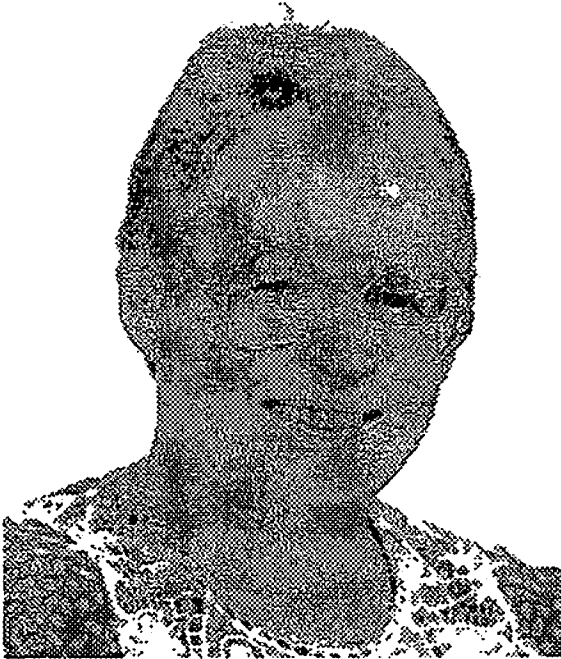
Meet the Mac	2
English Column	4
林檎ギャラリー	5
IMF's PDS	6
山の花	8
茶房	9
私のMac Life	10
盛岡BBS Now	12
気ままなコラム	14
林檎1周年特集	16
余計なお世話	18
掲示板	19
会員名簿	19
編集後記	19

Meet the Mac

How do you use your Macintosh? Why did you decide to buy a Macintosh? Those are interesting questions, because I have not thought about why or how for a long time. I just know that my Macintosh gets used every day. I would not be able to get nearly as much done without my Macintosh.

MY MACINTOSH

....By Evelyn Harry



Back in 1984 when Sean, our college son, said we needed a computer, I couldn't see why we needed one. I also couldn't believe that I could learn how to use it. I thought that the computers which I had seen used in businesses were much too difficult for someone like me. I thought you had to have a mathematical mind to learn to use a computer.

"Buy a Macintosh computer. It's easy to learn and easy to use. I bought a Macintosh this week." he said. "Several of my friends at school have one. You need a Macintosh, too."

We bought our first Macintosh computer in late 1984 and it was one of the best investments which we ever made. When we came to Japan we bought our second Macintosh and brought it to Morioka with us.

Every week we write at least seven letters to our family and friends in the United States. Some weeks we have written as many as 20 letters. Because of the Macintosh I can write one basic letter, then change it just a little to make it a personal letter. Our children all know that they get a "form letter" but each letter is different. Our five children live in Japan, Oregon, California and Florida so they are always glad to hear from us.

Our address list is on in Mac. Our English office work schedule is on Mac. I use Mac for creating English dialogues. I use it for word processing and making lists.

Recently I purchased a new program called "Family Roots". I have been very interested in geneology for many years, and have done a lot of research on my own family tree. "Family Roots" is making it convenient for me to consolidate all of my geneological information in one place. I am having a lot of fun putting my family's names, birthdays and a lot of other family information on the computer. After putting in the information I am able to make family sheets and family tree sheets. Family Roots allows me to combine my two hobbies, geneology and my Macintosh.

パソコンを 見つめ直した一年間

あまり知られていないこととは思いますが、私の職場であるアルプス電気の盛岡事業部ではパソコンを設計製造しています。そこでの私の仕事はパソコンのシステムソフトを作ることです。しかし、残念ながらそのパソコンはMacとは全く関係のない、米国ではむしろそのライバルであるところのIBM互換機なのであります。

そういう仕事ですから、入社してこの仕事をはじめた頃からMacのことは知っていましたし、何度か使ったこともありました。しかし、本当の意味でMacに出会ったのはちょうど一年程前の事でした...

昨年三月、ソフトウェア技術者協会という団体の会合が盛岡で開かれました。私もそれに参加したのですが、そこでSmalltalk-80というソフトのデモを見せられたのでした。Smalltalkというのは、いわゆるオブジェクト指向言語というもので、グラフィックをふんだんに使ったりして非常に大量かつ高速の処理を必要とするので、普通は専用機やワークステーションで動かすようなソフトなのです。そのデモを見て私は、Smalltalk自身にも感激したのですが、パソコンのくせにそれだけのソフトを楽々と動かしていたMac IIxのパワーに驚いてしまったのでした。そのデモの興奮も覚めやらぬとき、参加されていた野村さんがこの会の会のことを紹介され、わたしは即座に例会に出席したい旨を申し出たのでした。

その後は月一回のIMFの例会に出席する傍ら、会社では他部門が購入してほとんど使われていなかったMac IIxを交渉して貸して貰い、IBM互換機を使っている同僚達を横目にMacを使い続け、そのすばらしさを知っていったのでした。

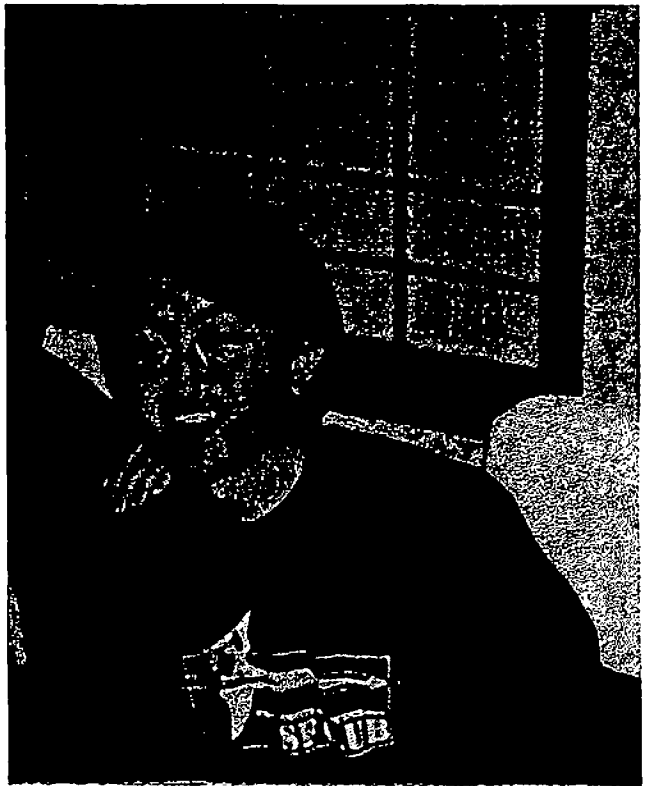
そして6月、自分のMacが欲しいという気持ちが抑えがたくなり、とうとう購入する決心したのです。

ワークステーション並のパワーに惚れたのですから、機種は当時最高速だったIICx(過去形なのがかなしい)しか考えられませんでした。モニターもIBM互換機でカラー慣れてしまった目にはモノクロはどうしても物足りなく思え、カラーを奮発してしまいました。おかげで資金がそこをつき、当面はプリンターなしで我慢しなくてはならなくなったのでした。

夏には、使わなくなったPC98を下取りにだし、その全額をはたいてMacのソフトを買いそろえました。秋葉原のT-ZONEの地下に入っていく、どれを買おうかと迷っている人達を尻目に、あらかじめ決めておいた10数本のソフトをささとかき集めてレジに持っていった時の快感は、ちょっとこたえられないものがありました。

秋にはAPDAの会員にもなったのですが、これは近い将来Smalltalk-80を購入したいからです。Smalltalk/Vは市販されていますが、Smalltalk-80は会員販売のみなのだそうです。

秋にはもう一つNeXTとの出会いがありました。会社の上司を説得し、調査のためと称して、噂のNeXT Cubeを発売とほぼ同時に購入させることに成功したのです。正直をいうと秋から冬にかけては、NeXTに夢中でありまして、Macはほとんど触ってい



なかったのです。そして暮れ近くなってしばらくぶりに使おうとしたらなんと初めてお目にかかるSad Mac!! 何度かRESETすると立ち上がり、以後再発しないのですが、例のQuantum Diskの問題だったのでしょか。でもひょっとするとNeXTに浮気をしていた私に腹を立て、すねてみたのかも知れません。そう思って暮れのボーナスではお預けになっていたプリンターを買ってつなげてあげました。

そんな訳で、去年はいろいろなパソコンとの出会いや別れがあった一年間でした。いままで作る側からしか見ていなかったパソコンを、使う側の立場から初めて見る事が出来たようにも思います。それというのも、IMFという会に参加できたおかげだと思っています。今年はこの原稿を手始めにしてもう少し積極的に会にかかわっていかう思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。

by 渋谷 誠

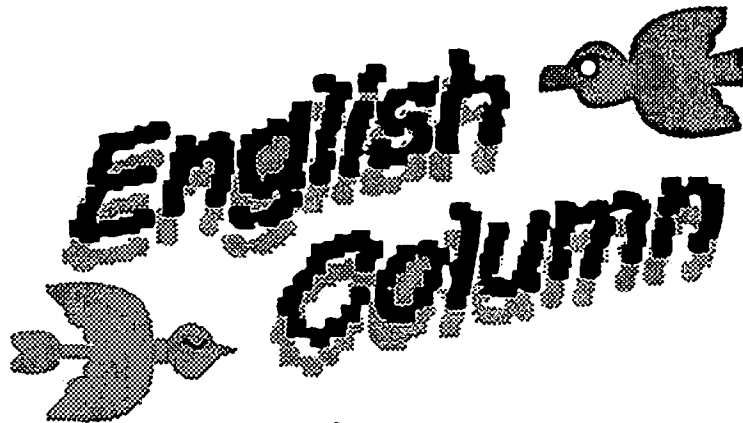
1990 - a 'New Age'....of freedom?

....by Richard L.Lammers

The last months and days before 1990 began were full of turmoil for many people, but they were also times of hope as in place after place 'walls' came tumbling down. Everything seemed to start with China, where, though it may look like the struggle for freedom has failed, it is still too early to make such a conclusion. After China, other protests, one after another....Poland, some provinces within Russia, East Germany, Hungary, Checkoslovakia, Bulgaria, Romania, and others..... and the struggle continues.

The search for freedom is going on in a way we have not known it before. Not that there has never been a search for freedom, but it has never been spread over such a large number of countries and people at the same time. Also, until recently it has not been possible for the whole world to see what is happening while it is happening. Communications systems give almost instant information as the search continues in ever new places... contagiously spreading from one people to another.

The search is not something new. To develop one's own dreams, to become the kind of person that one was meant to be, to live a meaningful life, a life that is able to contribute something to the well-being of the society within which it is born....this is a basic human desire of which we read in the most ancient literature.

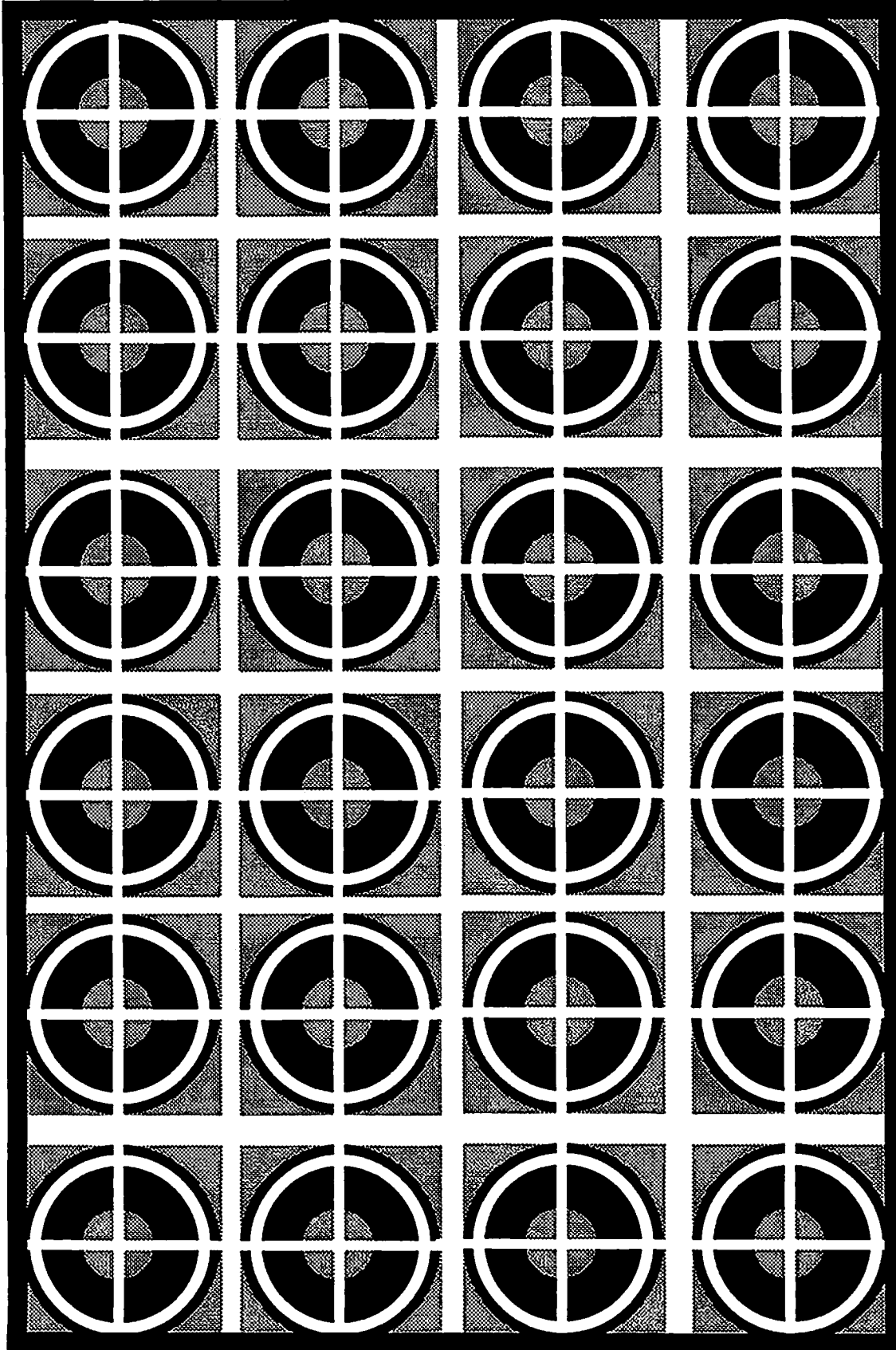


In the Book of Psalms (written perhaps 3000 years ago) we read again and again the plea for help in the struggle for freedom: "Help us, O God of our sal-

vation.... deliver us, and forgive our sins...." In every age, people have sought to be freed from a strong and wealthy ruling minority....where the few rich become richer and the many poor become poorer. This we have seen again in the present-day struggles.

We give thanks for the 'walls' that have come down to bring in a 'new age of freedom'.... we hope true freedom. However, all who wish for true freedom must remember, it will come only as each one of us accepts certain responsibilities in the society of which we are a part.

林檎半ヤリ



1990-2-masao-segawa

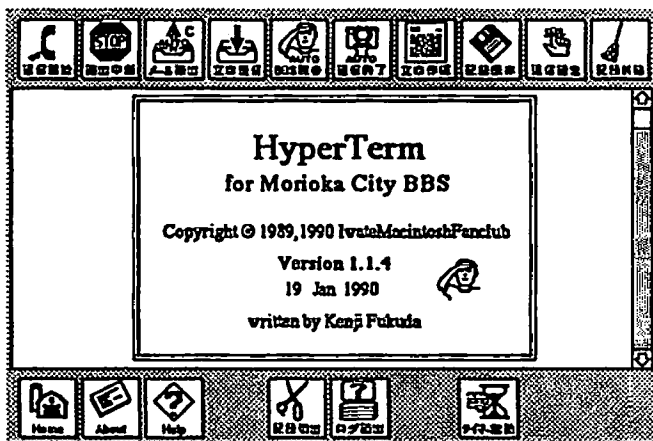
I.M.F's PDS

I.M.FのPDS第二弾としてHyperTermをご紹介します。

皆さんもご存じのとおり、盛岡市が提供しているBBSのマックファンのボード・Mac in Talkは、情報の質・量ともに全国的に通用する一級品で、I.M.Fの情報交換ボードとして活躍しています。

HyperTermはこのMac in Talkをはじめ、BBSの各ボードを渡り歩いてメッセージを読み出し、書き込みやメールを送る操作を、HyperCardのボタンのクリック一発で全て自動的に行なわせるナビゲーターです。

「通信開始」のボタンをクリックした後は、トイレに行こうが遊びにでかけようが、全てマック任せの楽ちん通信が出来ます。BBSをのぞいて見ようという方はぜひ使い心地を試して見ませんか？



HyperTermはハイパーカードのスタックです。ハイパーカード1.1J、1.1.2Jのどちらでも動きますが、1.1.2Jの使用をお勧めします。

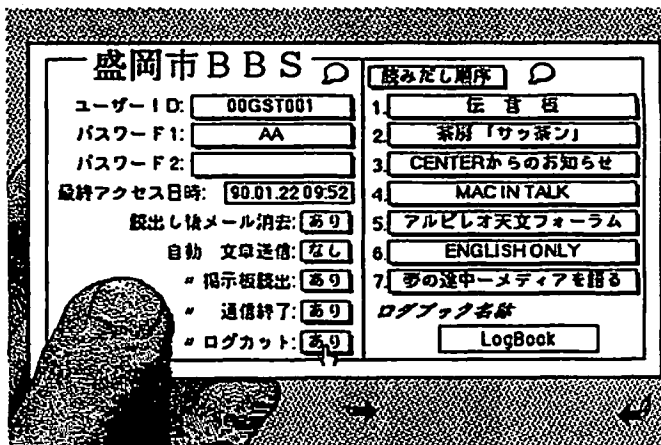
HyperTermをオープンすると左の画面が現われます。ただし、この画面は左下から二番目のボタンをクリックして、アバウトを表示させています。

「通信開始」をクリックする前に、最初だけ、ちょっとした約束をHyperTermとしておかなければなりません。

右上から二番目のボタン「通信設定」をクリックして、下の設定画面に移動します。まず左側の欄にあなただのIDとPasswordを書き込んでください。

最終アクセス日時はアクセスが正常に終了する度にHyperTermが自動的に書き換えてくれます。この最終アクセス日時以降に書き込まれたメッセージが読み出しの対象になりますから、一番最初にアクセスするとき一回だけ、あなたが最近アクセスした前後の日時に設定します。

メールが届いていれば最初に必ず読み出しますが、読み出してもホストのメールボックスには残っていますので、ボックスが一杯にならないうちにクリアする「読出し後メール消去」の設定を「あり」にしておいたほうがいいでしょう。この設定を含めて以降の5個の設定はプルダウンメニューから「あり」、「なし」を選択するようになっています。「自動文章送信」は、あらかじめ作っておいた文章を最大5つ、メールとしてあるいは書き込みとして、連続的に送るための設定です。「自動掲示板読み出し」は右の方に見える読み出し順序

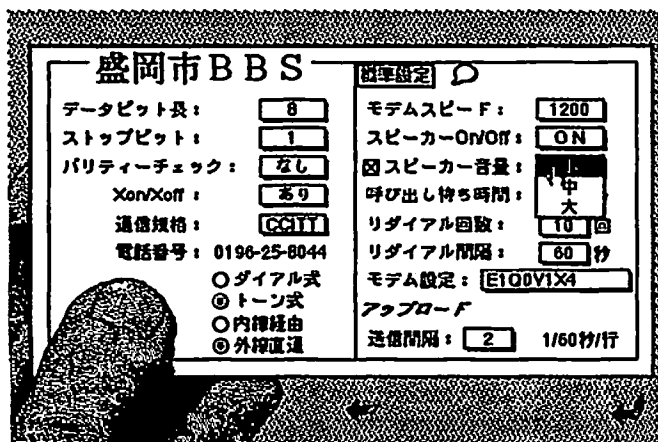


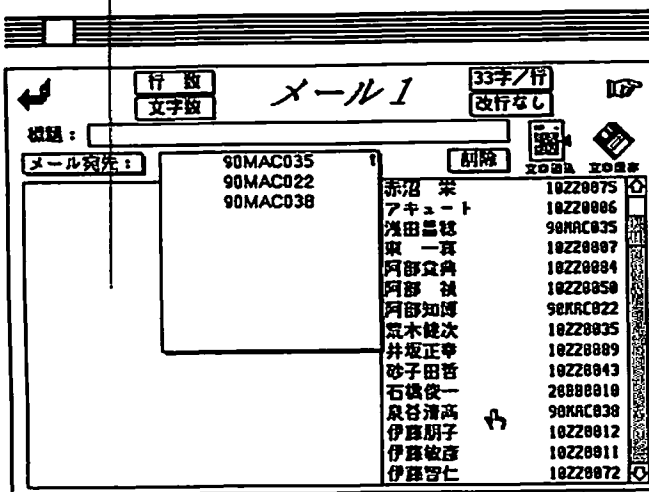
欄に設定しておいた掲示板の順番と内容にしたがって、先程の最終アクセス日時以降のメッセージを読みだす設定です。

これらの設定は、通信中でなければ通信画面のアイコンをクリックすることでも変えられます。

右向きの矢印をクリックして二枚目の設定画面に進んだのが、左の画面です。

ここではホストの電話番号、電話回線の種類、内線からの発信か直通かなどの電話に関する設定と、モデムの設定のうち、モニタースピーカの音量や、リダイヤルの間隔や回数を設定します。その他の設定は「標準設定」をクリックすれば事足ります。



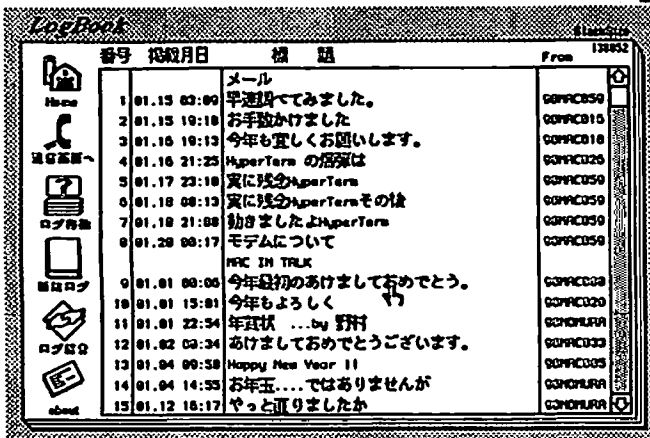
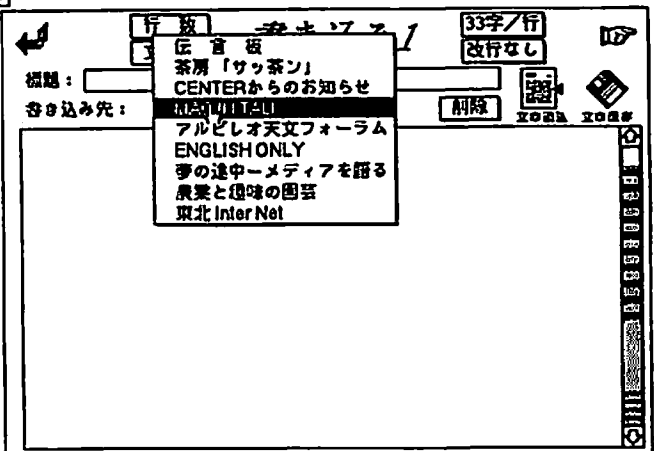


この画面は、通信画面で「文章作成」のボタンをクリックして移動し、更に「メール宛先」をクリックした状態の画面です。タイトルが「メール1」になっていますが、このタイトルをクリックすると下の「書き込み1」になります。つまり1枚の画面でメールと書き込みの両方を兼ねているわけです。

左のメール1ではメールの宛先を設定していますが、「メール宛先」をクリックすると宛先欄が10人分に拡張され、さらに右には会員の一覧表が現われます。めあての会員の名前をクリックするとその方のIDが宛先欄に転送されます。間違ったときは転送されたIDをクリックすると消去されます。

再度「メール宛先」をクリックすると会員名簿が消え、宛先欄は一人分に縮小します。右の「書き込み1」の画面ではメール宛先が書き込み先になっていますが、同時に宛先はプルダウンメニューに変わりますから、ここから書き込み先を選択します。

この画面には、あらかじめ作成しておいた文章を取り込んだり、作成した文章を保存するボタンもついています。一行の文字数を変えたり、改行を取ったり簡単なエディターになっています。標題と内容を書き込んであらかじめ用意したこれらの文章は、「自動文章送信」が「あり」になっていると通信画面に戻って通信を開始すると自動的に送られます。



左の画面は別スタックになっているログブックの索引です。通信設定で「自動ログ切出し」が「あり」になっていると、通信終了後メッセージ毎に下のカードに切り出したうえ、この索引を作り上げます。

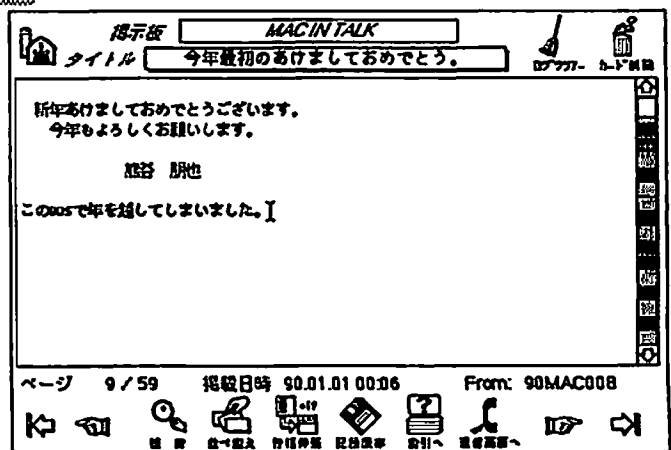
この索引からは、読みたいカードの上をクリックすることで移動が出来ますし、空のログブックを新たに作ったり、別のログブックからカードを取り込んだりできます。

下の画面が一つづつのメッセージを切り出したカードです。カードは掲示板毎に書き込んだ日付が古い順に並べ換えられます。

かくいう私は毎朝マックに火を入れ、スタートアップで立ち上がるHyperTermの「通信開始」をクリックして後は仕事に取り掛かります。二分もしないうちに全ての動作が完了しますから、おもむろに届いたメールを読み、書き込みを眺め、暇を見つけて返信とメッセージを作り、またもや自動送信でそれらを送る日々です。

HyperTermはI.M.Fの月例会で入手するか、ICS-NetからDownloadしてください。現在の最新バージョンはHyperTermが1.1.4、LogBookが1.3.1です。お使いになった感想をお寄せください。

by 福田

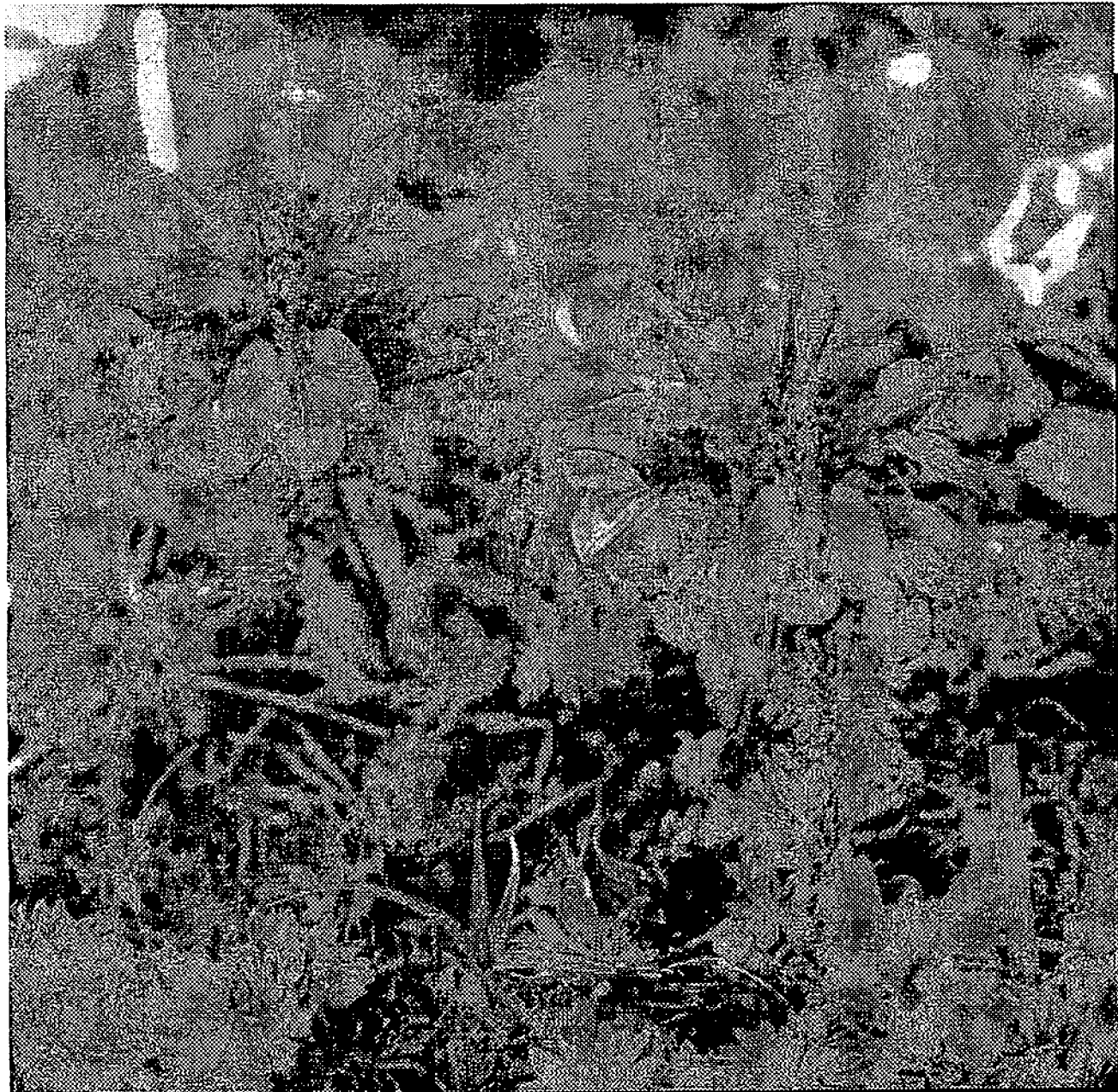


山の花の咲き初めの六月末に、早池峰の比較的低いところに美しい赤紫色の花があちこちに咲き誇ります。山の中が明るくなるような気がするほど華麗な花ミヤマシオガマです。花は茎の先に多数密に集まり花冠は長さ2~3cmあり、上唇は舟形で先が曲がり、下唇は広く開いて3裂しています。茎は高さ5~20cmになります。和名は「深山塩釜菊」で高山に咲くシオガマギクと言う意味です。シオガマギク

の由来は、花だけでなく葉の姿や色も美しいため「葉まで美しい」を「浜で美しい」ともじり、むかし製塩のため浜で使った「塩釜」と結び付けて名づ



けられたと言われています。まるで謎解きのようです。写真は白黒ですが、頭の中に澄み切った青い空を思い浮かべ、心まで洗い流してくれそうなきれいな空気を吸った気分、自然な赤紫を色付けしてみてください。そうです、その色です。是非とも、今年こそは頭に描いた色の正しいことを確かめに、ハヤチネウスユキソウを見るには少し早いです、まずは頂上を目指さずに足慣らしをかねて早池峰にトライしてみてください。



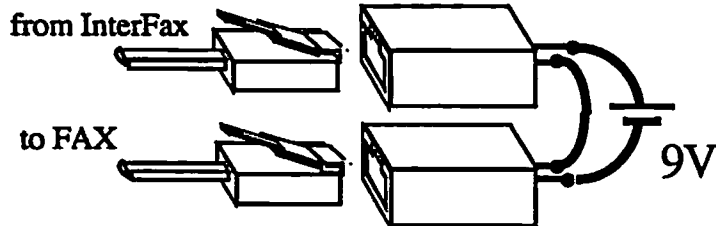
ミヤマシオガマ

茶房

InterFaxは

216dpiのプリンタ

照井 芳夫



ご存じMacのFAX-MODEMであるInterFaxを使用してImageWriter LQ相当の216dpi高品質（中品質か？）プリンタとイメージスキャナとして使ってしまうという話です。電話が2本有れば簡単に出来ますが、それでは能が無い記事に成りません。基本的にはInterFaxとFAXを直接繋ぐのですが、そのまま繋いでもうんともすんとも言いません。

分かってしまえば「なーんだ」と言う訳ですが・・・

用 意するもの、「InterFax」と「FAX」それに図の様な自作の「アダプタ」です。アダプタはうまく部品が見つければ250円程度で出来ます。

この作戦は「InterFax」と「FAX」を「電話線に接続されている」とだます事なのです。「だますというのはどうも嫌いだ。」という方には他の方法が無い事も無いんですが、「InterFax」と「FAX」それぞれの内部設定を操作しなければならぬので、機種による違いが有ったりして再現性が良く有りませんので、ここでは「電話回線に接続して通常に使用している設定のまま」出来る方法にしました。

先 ず電話線にはどんな電流が流れているのかを少し説明します。

1. 通話用電流。（直流）

電話器の中には電池が入っていないので、人の声を電流に変える為の電源となる。

ダイヤル信号を送る。（回転ダイヤル式は断続で、プッシュ式はこれを電源にしてダイヤルトーン発振器を操作して）

もう一つ大切な役目として、受話器が上がっているか下がっているかを交換機に知らせる。

2. 呼び出し信号。（交流）

ベルを鳴らすための信号というよりは「電源」です。さざると「ピリッ」と来ます。ちょっとしたランプ（ネオン電球）も灯きます。最近の電話機ではこの電流を整流（直流に変える）してIC発振器の電源とし、電子ベルを鳴らしています。

3. 信号。（交流）

通話の場合は「音声」、MODEMやFAXの場合は「キャリア」で、通信の目的とする情報です。

という訳で、1の電流の代わりに「電池」に働いてもらいます。

2の「呼び出し信号」がFAXに果たす役割は、「自動受信」のときに1～3回位（初期設定値）のベルの後で受信動作に入る為に使用します。MODEMでは「SOレジスタ」がそれです。留守番電話にも有りますね。

こ こで人が電話で通話するプロセスをおさらいして見ます。

1. 発信。

送信側が受話器を上げ、ダイヤルする。

2. 呼び出し。

ベルが鳴る。

3. 応答。

受信側が受話器を上げ、「はい〇〇です」と名乗る。

4. 通信。

相手に間違いが無ければ用件を話す。

5. 終了。

どちらかが受話器を下ろした時点で終了。

そ れではいよいよ、「InterFax」から「FAX」への通信（プリント）手順に入ります。

1. 発信。

受信側（FAX）の受話器をあらかじめ上げておきます。

ダイヤルコマンドを送る。ダイヤルは必要無いのですが送信側（InterFax）が受話器を上げた様に見せかける為。

2. 呼び出し。

ベルは鳴りませんが、送り手と受け手が同じなので問題無い。

3. 応答。

ベル信号が無いので手動応答です。受話器は既に上げてあるので「受信」ボタンを押します。（FAXは応答信号を送ります）

4. 通信。

応答信号を受けたInterFaxは送信を開始します。

5. 終了。

送信する物が無くなれば自動的に終わります。

「FAX」から「InterFax」への通信（スキャナ）の場合、「4. 通信」の所が少し違って、「送信」ボタンを押す必要が有ります。

も うお気付きの方もいらっしゃると思いますが、この「接続アダプタ」で「MODEM」と「MODEM」を繋げば、通信ソフトを使用して相互に通信出来るのです。「ワープロとパソコンの間でテキスト交換をしたいんだけど、RS232Cのコネクタが特殊でケーブルが手元に無い。」という時、この方法で簡単に通信出来ます。もちろん電話機を2台繋げば通話が出来ます。

私のマックライフ

私のアップルライフ

T. Shimada

白石さんと一度お会いしたことがある方は、目を輝かせてパワフルにお話されるので印象が深いと思います。今回は、遊びや仕事にマックを縦横無尽に使いこなしている白石さんに、執筆頂くことになりました。現在のMacintoshのルーツであるApple IIの時代からのユーザで、先日マックの置いてある職場を尋ねましたら、どんどんマックを使って想像力あふれる仕事をされている様子を拝見しました。



「私のマックライフ」

を書く前に、私のアップルライフについて書かな

ければいけません。その訳は、Macに会うもつとずっと前、1976年ころにアップルIIと運命的出会いをしてしまったからです。それ以後、私のライフスタイルは一変しました。世の中にこんなオモシロイものがあるなんて、と驚いたのを今でも思い出します。

それまでは文化系の大学に入り、日本伝拳法道という空手のような会に入会し「押忍」の精神、それから体育会の世界の単純さ、窮屈さ、オロカサに気づき、その後一転して、ジャズ愛好会に入り、ジャズの自由を満喫したような典型的な体育会文科系人間でしたので、理科系の論理的コンピュータの世界を垣間見た時は、ホントウにビックリしました。

これから本筋から時折脱線しながら、私のAppleグラフィティについて書きたいと思います。

1976年ころの日本には、国産の完成品としてのパソコンはありませんでした。IMSAIなどのコンピュータなどと違い、モニター、キーボード、本体などが始めから付いて完成品としてあったのは、PET2001とTRS80とAPPLE IIだけだったのです。しかし、その中でカ

ラーでグラフィックが強力なのは、天才スティーブ・ウォズニアックが作ったApple IIだけでした。

Apple IIは、東京本郷近くの湯島にあるESDラボが日本での総代理店でした。当時、ESDが作成したApple IIのポスターには、「憧れのアップル」というポスターがありました。本体40万、DISK IIが13万、カラー・モニターが5万、全部で58万くらいの価格で、普通のパソコンマニアには到底手がでない値段であったので、そのようなコピーができたのでした。

そのころESDで聞いたエピソードに、今では考えられないことがありました。それは、ESDで近くの東大にApple IIを納入しようとしたところ、経理担当者からApple IIに貼られている、リンゴマークがコンピュータにはオモチャのように見えるので、「そのプレートをただのグレーのプレートの貼り替えて納入してください」と言われたそうです。無粋な経理担当者には、アメリカ西海岸のレインボーカラーのセンスが解らなかったのでしょうか。どうしてもIBM(ビッグ・ブルー)の、やほったいセンスが求められた訳です。

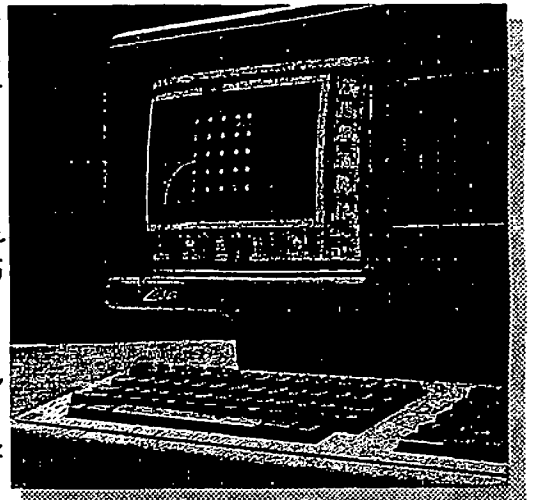
ESDに遊びにきてApple IIで遊んでいた人達の大半が、のちにファミコンやシャープのX68000の開発技術者になったそうです。日本の場合、8800,Z80系CPUの開発者はたくさんいましたが、6502,68000系統の人達はApple IIにくわしい人達しかいません。ちなみに、ファミコンはApple IIのグラフィック部分を拡張して、キーボードを取り、洗練し、コスト・ダウンをしたマシンです。そのため興味が、ファミコンが発売されるとすぐ買ってしまいました。使ってみると、ファミコンで動くゲームには、どこかApple IIのニオイがします。

又、本筋に戻しましょう。本当はApple IIがほしかったのですが、お金がなかったので、コモドール社製のPETを買って、当時まだ薄かったアスキーを見ては、ベーシックでプログラムを組んで遊んでいました。2年ぐらいて、ついに中古のAPPLE IIを購入し、東京に出張する時には秋葉原駅前のラジオ会館にある富士音響などで、ゲームソフトを買ってくるようになりました。

最初TRS80用に出て、それからApple用に発売されたもので、今でも鮮明に覚えているソフトにビジュアルがあります。世界で一番最初に出た表計算用ソフトです。現在のロータス1-2-3(編注:MS-DOSマシンで動作するソフト)やExcelの元になったソフトです。このアイデアは、今でもすごいアイデアだと思います。

なおこの画期的なソフト開発について興味のある方は、アスキー出版局から出されている「実録天才プログラマー」という本に詳しく書いてありますので、読んでみてはいかがでしょうか。

何年かして、あのLisaが発売されました。Macと違い、あまりにも高い価格だったので、日本でもアメリカでも売れなかったようです。当然、私も高すぎて手ができませんでした。盛岡でも木津屋さんが、Lisaのフェアを盛岡会館で開催した



のを覚えています。Lisalは途中で、5インチから3.5インチにメディアが変更されました。これがAppleで3.5インチを採用した最初でした。その後発売されたMacも、この影響で3.5インチが採用されたようです。

ついにMac128が発売されました。

やっと、Macintoshの話に辿りつきましたね。

バンドルでMacPaint、MacWriteなどのソフトが付いてきましたが、やっぱり一番スゴイ、ソフトだと思ったのは、ハイパーカードを作ったビル・アトキンソンのMacPaintでした。

日本で売られている全てのグラフィック・ソフトは、このソフトの影響を受けていると思います。どうして、Appleはこれらのソフトをバンドルしたか知っていますか?それはソフト・ハウスがMacのソフトを作る時の、ガイドラインにするためだったのです。ユーザー・インターフェイスの基本コンセプトとして最低必要な機能を網羅して、この機能プラスαのソフトをサード・パーティのソフト・ハウスに開発してもらう為だったのです。ハードを作ったコンピュータ会社が、そのマシンの標準になるソフトを、添付するべきではないでしょうか。

日本のコンピュータ会社は、AppleのMacと言う良いお手本があるのに、何を考えているのでしょうかね。日本はまだ、なにことも基本コンセプトづくりが大事だ、ということがわからない社会で、残念に思います。

そうこうしている内に、Mac SEが発売されることになり、ついにMac SEを自分で買うことにしました。最初は1Mで動かしていましたが、すぐに2Mに増設しました。東京に出張で行った時に、DATAFRAMEのXP40ハード・ディスクを買ってきました。その後基盤交換で60Mになりました。プリンターのImageWriter IIは12万くらいしたため、日本で買わずアメリカに旅行した時、コンピュータ・ランドで日本円で5万くらいで買ってきました。

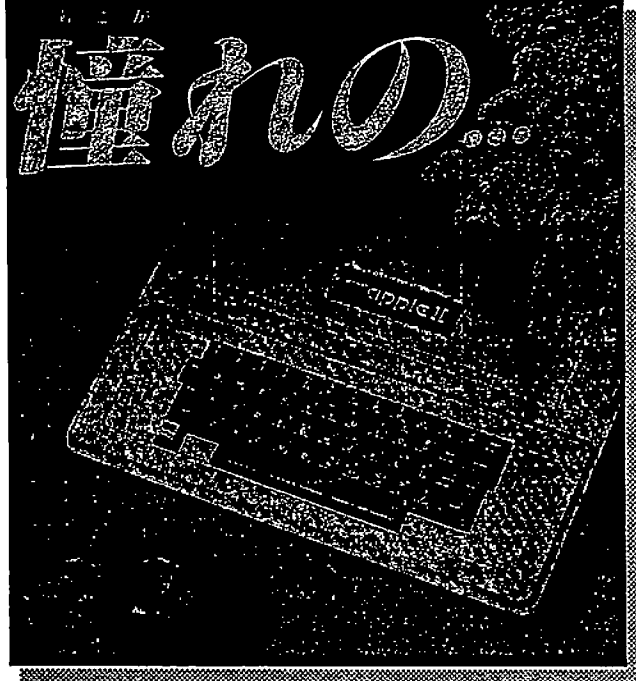
私の会社での一日は、まずMacに火を入れ、(電源を入れという表現より、この表現の方がいいでしょう)福田さんが作ってくれたHyperTermで盛岡市EBS実験サービスのMac in Talkをアクセスし、それからNiftyをNinjaTermでアクセスすることから始まります。一番使用するソフトは、SuperPaint2.0です。次にByWord、Excel、インスピレーションです。

Macが一番楽しんでいることは、ResEditを使って英語のソフトを日本語に直すことです。自分で英語と日本語訳の定義表を作り、よく使用される英語の標準日本語を使って、日本語版を作っています。各ソフト・ハウスで日本語訳がバラバラになっており、プルダウン・メニュー等の統一ができていません。早くApple Japanから、日本語訳用の標準定義を決めた漢字Talk Inside Macintoshが出てきて欲しいです。例えば、UNDOは元に戻す・回復・アンドゥ、Name Asは名前を変えて保存・新規保存など表記が統一されていません。

またどこまで日本語にするかも決まっていません。例えば、Header、Footerはヘッダーやフッターと訳すべきか、鑑部、脚部と訳す方がいいのか等です。

これからは、今までよりコンピュータを知らない人達がMacを買う時代になると予想されるので、早急にこの辺の統一が望まれます。

Appleが作ったコンピュータは日本のコンピュータと違い、コンセプトの固まりです。Macのソフトを使っていると、斬新的、多目的、個性的なため、それに刺激され、色々のアイデアが沢山浮かび、クリエイティブになります。何かMacから触発されるのです。皆さんも、Macに触発されませんか?この辺が、他のコンピュータを使用している時と違うところではないでしょうか。



マクルーハンが「人間拡張の論理」という本で、目の延長がテレビジョン、足の拡張が自動車、そして、頭脳の延長がコンピュータだと主張しています。Macは、このマクルーハンが言う頭脳の延長としての、真のコンピュータではないでしょうか。

最後に、Macを使い込めば、使い込むほど、アメリカのソフトウェア産業の底力を感じてしまいます。全く、白紙の状態から何かを創り出す能力は、アメリカ人は日本人の数倍あるのではないのでしょうか。最近、日本はアメリカに追いついたなど言われていますが、Macを使っているとそれが間違いであることが解ってきます。まだまだ創造性の面では、アメリカに日本は追いついていません。

Macは、アメリカ文化の多用性、草の根主義、ウェストコーストの明るさ、軽さ、若さを持った、たくいまれるコンピュータです。これからも、Macのソフトを使って、たえず触発されるマックライフを、エンジョイしていきたい思います。



MORIOKA BBS NOW

◎GEMINI続編

隔月の会報で連載ものというものんびりした話ですが、福田さんのGEMINIレポートを続けます。今回はソフト編です。会報づくりをしていると、PlusとSEでは、Page Makerなどでどうしても遅さにイライラしてしまいます。SEユーザーには、SE30へのグレードアップという方法がありますが、Plusユーザーにはアクセラレータだけが助け舟のようです。(遠慮して、そんなことは気にしないという手はありますね。)とは言っても、安い買い物ではないし、SE30が安くなるのを待った方が良くないかな、など迷いつつも、何とか我がPlusにもつけてあげたいと思っています。 -佐々木-

◎131: 90MAC005 89.10.06 20:00 Geminiレポート 3

さて、ソフト編

新しいSCSIポートにHardDiskを接続して、改めて立ち上げました。はてなマークがビコビコしています。ハードディスクはちょっと読みに行ったようですが、認識できなかったようです。付属のフロッピーを食わせませぬ。System6.02Bが立ち上がり、ハードディスクを読み込んでアイコンを表示しました。

フム、何だこりゃ。

マニュアルをざっと読むとトラブルシューティングの項がありました。要約するとSCSIが早くなったんでブートの時のタイミングが非常にクリティカルになったんだそうです。最初にハードディスクのメーカーにわたりを付けて最新のディスクドライバを手に入れたら書いてある。だめ、待てない。次はTSIに連絡してGemstart(Gemini用のインシュライザー)の最新版を手に入れて試してみろと書いてある。アホ、余計に手間暇かかる。3番目はインターリーブを変えろと書いてある。Plusは3:1がノーマルだけど、1:1でいけるからフォーマットし直せと書いてある。うん、確かにMac IIより早いんだから、その必要はあるなあ。最後はもっと早いハードディスクに換えろって?そんな金、無い!

で、フォーマットし直すことにする。幸い、いっぱいフォーマッターやドライバを徳富さんから頂いていたので、手順なやつを探していたらSilverLining(と綴ったかな?最初は早とちりしてSilverRingだと思っていた)があったので立ち上げてみる。立ち上げた途端、自分のところのドライバが組み込まれていないから組み込めと要求される。一番早そうなドライバを組み込んでみる。フム、うまくいったみたい。SilverLiningを抜ける。試しに立ち上げる。ダメ。うん、やっぱりインターリーブも換えなきゃならないなあ。

さて、40M近いボリュームをバックアップするのは骨が折れるな、なんて考えながら50枚近いディスクを用意する。バックアップはAppleのHDBackupを使いましたがHDBackupはディスクを食わせるのとタペリファイをしてから書き込むんですなあ。矢たら目いたら時間がかかる。ディスクを入れちゃ出し、入れちゃ出しを46枚。あらかた貯金をはたいてしまったのに、ストリーマーを買わねばと思ったほどでした。ようやく終わって、SilverLiningを立ち上げていよいよフォーマット。チョイチョイとディスクが回って順調に進み、Read-Writeのテストに入ったときは「うん、今晩はフォーマットしたら止めよ。またガチャコンするのは明日、今日は編集会議だから行かねばならぬ」と思っていたわけですが。最初はpass 1。9分のタイマーが目にも止らぬ早さで減ってゆきpass 2。次も9分。pass3, pass4, pass5.....。暇なもんだからストップウォッチで確認すると9分かからない。約半分。む、さすがGeminiなんて言っていたのは最初のうち。だんだん疑りだした。こいつRead-Writeチェックをいくつかのパスに分けてやっていると思っていたが、もしかして?さすがに20パスを越えて30パスに近づくころには止めることを決める。なにしろディスクのアクセスランプはほとんどつきっぱなしの状態です。約2時間半。鈴鹿の耐久レース、へたすりゃルマンの24時間。あれ、本当はどうなってるんでしょうか?あれが正規の動作で、待ってりゃ終わったんでしょか。噂に聞いていた恐怖のSilverLiningの実体とはこのことだったのかと、不安がムクムク湧き上がり、私には耐えられませんでした。どなたかSilverLiningの正体を知っている方がいらっしゃったら教えてください。

おまけに、これでも立ち上がらない。途中で止めた所為かと思っただけで、またあの耐久レースをやる気にはなれない。

さてどうしよう?!

さて、ソフト統括

次なるフォーマッターを探しました。で、結局C&E(純正)のフォーマッター1.5でフォーマット。あっけないくらい簡単に終わりました。あれはロジカルフォーマットだけなんですね。次はSilverLiningのドライバーを組み込む。Systemをコピーして、リスタート。成功。よしきた、毒を食らわば皿までもバックアップのファイルのリストアしてやろ。ところがどっこいコピーしたシステムは英語版。HDBackupは日本語版。表示が化けて読めないときた。適当に見当つけてクリックしたら、またバックアップしてしまった。あちゃー、一枚目のバックアップディスクが、わやや。(時々大阪弁)

さてそれからが、悲惨。 願望とはしてくるし、最初のディスクがないもんだから一々ファイルを確認してディスクからコピー。たまにHDBackupで分割されたファイルはHDBackupを立ち上げて復元してやらなきゃならないし。で、ようやく明が白むころに終わったのでありました。

教訓 マックに損ねてしまったらとりあえず何とかなるもんだから、余り考えることをしなくなったのが裏目にでたなど、反省しております。

その後の顛末

Geminiは、マックのROMを32bitバスでアクセスできる自分のRAMにコピーできるようになっています。Toolboxのルーチーンはしょっちゅうアクセスされますから、バス幅が広がりアクセススピードも早いRAMに展開するというのはいい考えです。ただ、どのアドレスに展開しているかわかりませんが、INITやCDEVもあっちこちにパッチを当てていますから時々ぶつかるようで、最初は非常に立ち上がりが不安定でした。といってもどれがどうだという確実な相性の決め手もないみたいでした。確かなことはわかりませんが、当初は私のSystem heapがノーマルから512Kも大きかったみたいです。その後はINITやCDEVをとっかえひっかえ確認しましたがSuitCaseがFonts/DAsというフォルダーからFontやDAを読み込むときに爆弾です。Fonts/DAsにFontやDAを出しておかなければ応いようです。けれども、肝心のGemStartが読み込み途中で爆弾なんて事態にぶつかるとうん、何だかわからなくなります。INITやCDEVを全部引っ込めておくとも確実に立ち上がるころをみると、GemStartとはかのINITやCDEVとの読み込み時の競合であることだけは予想できます。それで不思議は、GemStartは実は頭にみえない文字が2つ付いていて、私の変則漢字トーク6.0Bでは片仮名のハに見えるんです。これをHexダンプするとSCAなんですね。マックは本来はこのコードにnon-break space、つまりスペースの一種を割り当てているんですが、確かに6.02Eでみるとスペースの一種である証拠にby nameでファイルを表示すると一番最初にくるんです。但し漢字トークでみるとほとんど最後です。ま、当たり前ですな。なにしろSCAですから。

うん、結論だ。

本来GemStartが一番最初に読み込まれなきゃならない。なにしろCPUそのものの設定をするわけですから。英語版のシステムではこのままでいい。けれども漢字トークではそうはいかない。SCAじゃなく\$20である必要がある。しかも漢字トークが頭に一つスペースが付いているからには、これより早く読み込ますにはスペースが2つある。かくてSystemFolderをby nameでみるとめでたくGemStart、漢字トークの順番で並ぶことになったわけです。実はこれは昨日の例会で偶然のように見つけてしまったのです。

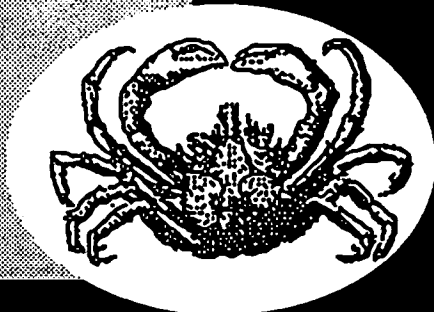
以来Geminiは確実に立ち上がります。めでたしめでたし。

ちなみにDiskTimer IIaで計測したディスクの早さは

	C&E RS40	XP
Read	58	52
Write	43	55
Step	18	16

と、なっています。次なるユーザーの参考までに

完 1.10.6 福田



「次の一手」

1990年の幕開けに、(といってもこのコラムに目を通される頃には既に節分の時期かも知れませんが)

「謹んで初春のお喜びを申し上げます。」そして本年も昨年同様、よろしくお願い申し上げます。

今 回の年末から年始にかけての忙しさは30有余年の人生の中でも極めつけのものでした。まあ、多くの家庭では年末は大掃除や片付けのもので何かと慌ただしく過ごし、後に訪れるお正月をのんびりと...というのがよくあるパターンではないかと思われませんが、昨年から今年にかけては私の場合と事情が異なりました。その理由は2つありまして、1つは病院で発行している院内報「せせらぎ」の発行日を1月5日、と浅はかな編集局長(さもあらん、私です)が決定した当然の結末として地獄の様な編集作業が待ち受けていた事。そして残る一つは掲示板「MacInTalk」に目を通されている方なら良くご存知、そう手元に私の業務の次期支援戦闘機たるMacintosh IIciのシステムが到着した事によるものです。こうした理由により、私の昨年から今年にかけての年末、年始は極めて悲惨な状況とあいなった訳ですが、こうした動きの中で感じた事等を今回は書きたいと思います。

私は過去から現在まで、マックを使い始めてからというもののマックを何とか自分の業務にパワフルに使用できるマシンとして使いこなしたいと、全精力を注いできました。勿論、マックも年月と共に成長するのは当然で、こちらの要求とマックの能力とがとてもうまくいっている時や、話にならない程ずれていたり、で結局はお互いの思考錯誤の連続で今日までやってきた、そんな感じでした。この様な流れを振り返るとマックの進化の過程で非常に重大な分岐点となった事項が幾つかあります。私を感じているのは以下の点です。

1) ファイルシステムがMFSからHFS

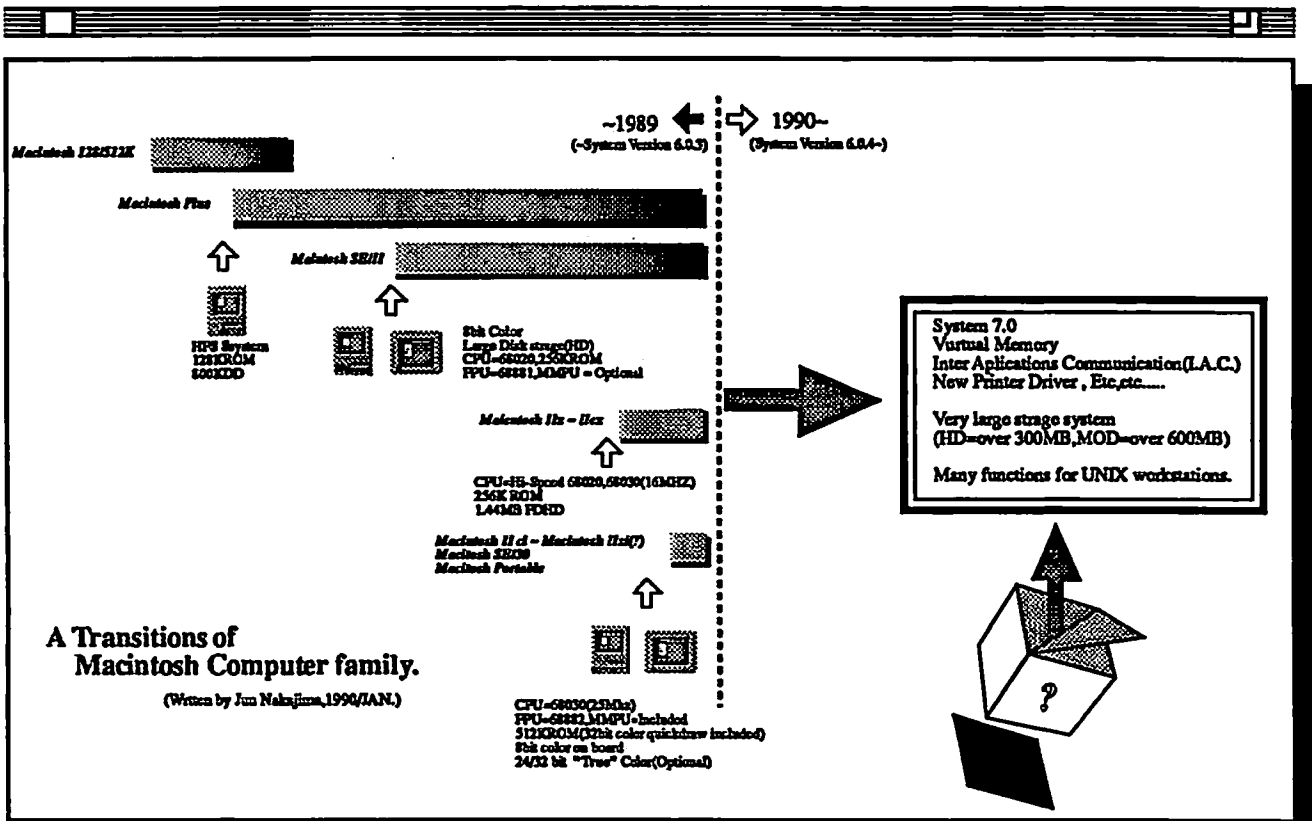
に変更された事。

2) オープンアーキテクチャーの実践として、モジュラータイプのMac(Mac II)が登場した事。

この2点です。「いや、もっと他にもあるじゃないか」という方もいらっしゃるかも知れませんが、マックの進化をソフトウェアとハードウェアの両面から捉えた時に、上記2つのポイントが決定的にマックの変換点となったとって間違いのないと思います。その他の細かな変更は変化の流れの中で必然的に発生したもの、としてよいのです。今まで私は1)の変換点は正にその核心を体験してきましたが、(例えばファイルサーバーにMFSのシステムを持ったマックを使用するとしましょう。そして子供達はHFSシステムを持っている、と仮定して下さい。子供達は自分のOSに従ってファイルサーバー上に階層状のフォルダ構築を行います。しかし、ネットワーク端末では何も問題が無い様に見えても、実際には問題が生じているのです。MFSで構築されたファイルサーバー上にはHFSの概念がありませんからHFSで構築されたフォルダは認識されていない訳で...後に生じてくる問題は何か?は読者の皆さんが想像して見て下さい)2つめのモジュラータイプのMacについては全く経験した事がありません。これは現在までのマックの流れの中で中間期にあたる68020(CPU: Macintosh IIで採用)の時代は総てサードベンダーの製品で乗りきってきた事によるものです。では、何故今回迷に純正品としてのCPU購入に踏みきったか?については、「私の今までの経験に基づく勘」というほかありません。「何かが変わる、それも大規模に」という直感です。参考までにフリーハンドで作成したシステムフローをご覧になって下さい。(紙面の関係で編集長の許可が出なければボツの可能性もありますからその時は勘弁して下さい)新しいCPUが到着して約2週間が経過しようとしています、その間にあれこれやと試した結果では私の勘に狂いはなさそうです。というのは、今までのシステム環境と全く異なった(今迄経験した事もない様な)トラブル

が非常に多いからです。これと似た経験を以前持った記憶があります。そう、MFSからHFSに変更された時にこれと同じ様な(つまり、今迄とは違うなあと感じる)体験をしています。思い出せばあの時もソフトハウスがハードウェアのスペックに書き替える為に1年位は何だかんだと混乱が続いたものです。(アーキテクチャーの公開が100%でなかった事も原因したのでしょう)今回は特にマルチファインダーとの関係で問題が生じる事が多い様に感じます。特微的にはBBS等にかかっている様な「どれどれのアプリケーションが走らない」という類のものではない...と感じる点です。既存のアプリケーションを走らせていて、(実際、結構良く動いています)プリントアウトしようとして、システムから「ドライバーが不適当なので、不能です」、とか空きメモリーは充分な筈なのに「メモリーが足りず、巻類を開けられません」とかいうものです。思うに、ハードウェア上のメモリーマネージメントが今迄のアプリケーション環境に適合していない様に感じるので、ご存知の通り、ciは512KのROMを持っており、ツールボックスが大幅に書き替えられた様ですが、(それでも6.0.4ではその半分も使用していないかも知れません)その事と今回の問題は間違いなく関係があるのでしょうか。しかし、私の印象では非常に問題が多いマシンと感じるには至っていません。非常に高速な印象を受けますし、現在JAMを使用して日本語を走らせていますが、(現にこの原稿もそうして書いています)JAMのメモリーキャッシュ等最低で何の問題もない位変換スピードは高速です。グラフィックスの移動がよりスムーズなのはおどろきで、8ビットカラーで走らせていて、殆ど白黒とスピードが変わりません。(無論、白黒でも今迄よりは格段に速い訳ですが)

結論 論的には、今迄使用していたINITの殆どが乗って結構うまく走っています。その数が「30個」と聞けば、幾らか納得して成けるのでは無いでしょうか?購入以前の予想通り、INITの中で特別問題があったのはInterMail(V.1.0)だけでした。これはプログラムの相当マックの世界では「してはいけない」事を行っている可



能性があるので、十分に予想していたので、特に問題は無いのです。もう、3年前のもので、この進化の速い業界では走る方が不思議かも知れません。

こうした幾つかの点から私は「時期としてサードパーティーで乗り気るべきでない」と考えた訳です。費用対効果からすると(例えば高速のCPUアクセラレーター等)冒険が大きすぎる時期の様に思います。再びサードパーティーの動きが活発になるのは1991年以降ではないかな?とこれも直感的にそう考えています。(恐らくその時点では相当本体CPUをアシストする役割のRISC CPUボードが登場する事と思います)これからマックのアップグレードを考えておられる方は来年の6月以降でも遅くはないと思います。更に魅力的なラインナップが登場する可能性もあります。そして、もし貴方が望むのであれば積極的に「最も進んだ機種」を選択する事です。ソフトウェア環境は必ず後からついてきますから、その点で「今」を大切に、「未来」を垣間見るチャンスを失う事は余りにもおろかな事です。私はそう思います。そうした姿勢がまた、前回にも書いた様に、「良い循環」を生みだす原動力になるのだと私は信じ

ます。では、どうして私はそれを待たずに購入したのか?と聞かれそうですが、それにはちゃんと訳があります。今回の購入は長くアメリカに住んでいた友人が帰国する事になり、「ひとつ最後に大きな買い物をしたらうじゃないか」という経緯があるので、だから、時期的には少し早かったけれど思い切って決断したという訳です。所謂、今回のciは「友情の賜」という事で、そういった意味でも私にとってとても大切な記念の品なのです。

さて、新しい機種を導入して、心ウキウキか、といえは実際はその逆です。殆どを業務に使ってきた関係上、重要なワークファイルはその数が1,000を超えようとしている昨今です、このデータを移動しなければならぬし、あれやこれやとシステム互換を試さねばならぬし、で台所は火の車(あまり良い表現ではありませんが)、という感じの歳の暮れでした。ここ数年はシステムが変更されても何という事も無く対処してきたのですが、今回はそうはいかず(とにかくシステム6.0Aしか走らない)毎日、夕方から夜中までテストテストテストの連続です。実際に行わねばならないのは

こうした事ではなく「仕事」なので、本心をいえば、憂鬱の一言につきてしまいます。

でも、苦あれば楽あり、がどこの世界でも定石です。早く慣れて(今の処、60%前後位は使える様になったかな?という感じです)自然な関係に戻りたいと願ひ、それ故の頑張りであるともいえそうです。

楽しい事を幾つか、やはりカラーは楽しいな、という事です。仕事にはとりわけ必要ではありませんが、やはりカラーは楽しい、心が和む、この説明だけで十分と思います。それが白黒と変わらぬスピードで走るなら尚の事だと、今はそう感じる様になりました。

という訳で、今回はこれにて、とここまで読まれた方で「あれえ、確か今回はコンピューターのデザインについてじゃなかったのかなあ?」と気づいた貴方、かなりの切れ者とおみうけしました。が、それ以前にこのコラムの題名は「気ままコラム」ですから、御容赦の程を。その話題については触れる時が必ずきます、という事で次号にてまたお会いしましょう!

(この回終了)

林檎

一周年記念特集

会員の皆様のご協力を持ちまして、なんとか一周年を迎えることができました。創刊以来、原稿をお寄せいただいた方は、のべ112人の多きに達しています。ほんとうにありがとうございました。

一周年の節目にあたり、6号までに原稿をお寄せいただいた方々の内訳をご披露いたしまして、改めて深謝の意を表わしますとともに、まだ原稿執筆をお願いしていない方々には、これから優先的に原稿を御依頼致しますので、どうか楽しみにお待ちしております。

by ...徳富

氏名	住所	林檎1号	林檎2号	林檎3号	林檎4号	林檎5号	林檎6号
Dick Harry	盛岡市						
Evelyn Harry	盛岡市						
R. Lammers	盛岡市	E. Column	E. Column	E. Column	E. Column	E. Column	E. Column
浅田 昌彦	和賀町				会員便り		
浅沼 清智	花巻市						
浅野 恵治	花巻市						Meet the M.
荒木 健次	東京都		自己紹介		Next特集		東京通信
安保 淳一	盛岡市						
伊崎 統一	盛岡市		自己紹介				
大河原 清	滝沢村	自己紹介			会員便り		
沖野 寛	三戸市				会員便り		
小沢 徹	盛岡市						
桂川 茂彦	盛岡市						
兼平 信一	盛岡市						
萱沼 まゆみ	盛岡市						
菅野 卓矢	盛岡市		自己紹介	Meet the M.			
工藤 道範	盛岡市						
服谷 朋也	盛岡市		自己紹介	Meet the M.	会員便り		
香城 孝盛	盛岡市	Nifty Now	自己紹介	私のML			
小松 寿夫	北上市						
斎藤 武	盛岡市	自己紹介	余計なお世話				
斎藤 怜	盛岡市						
佐々木 幸司	盛岡市	BBS	BBS	BBS	会員便り	BBS&MMM	BBS
佐々木 俊光	胆沢町		Macと私				
佐々木 治男	矢巾町						
佐々木 文雄	紫波町						
佐藤 渡人	盛岡市	茶房	山の花	山の花	山の花	山の花	山の花
猿橋 浩昭	北上市						私のML
渋谷 誠	盛岡市						
白石 隆	都南村			図書館リシギヤリ			
菅原 健蔵	盛岡市	自己紹介					
杉村 栄一	盛岡市				会員便り	リシギヤリ	
鈴木 是光	盛岡市						
鈴木 卓	軽米町						

氏名	住所	林檎1号	林檎2号	林檎3号	林檎4号	林檎5号	林檎6号
瀧川 昌男	盛岡市	リンギヤリ	リンギヤリ	リンギヤリ		リンギヤリ	リンギヤリ
戦場 博和	盛岡市						
高島 浩一郎	盛岡市						Meet the M.
高橋 晃	盛岡市				リンギヤリ	巻頭言	
高橋 晃	盛岡市				Archi Net		
高橋 晃	盛岡市				会員便り		
武元 伸次	盛岡市						
田中 康司	盛岡市	Macと私					
谷口 和美	盛岡市				会員便り	私のMacLife	
谷藤 幸夫	盛岡市						
照井 恒	盛岡市						
照井 芳夫	花巻市	自己紹介		PCVAN Now	特集+日環境		
照井 芳夫	花巻市				会員便り		
照井 立	花巻市					Meet the M.	
徳富 亘	花巻市		特集		私のML+日環境		
徳富 亘	花巻市				NeXT+会員便り		
中居 賢司	盛岡市						
中島 順	流山市	きまコラ	きまコラ	きまコラ		きまコラ	きまコラ
西島 光茂	盛岡市						
根本 聡彦	八戸市				日環境+会員便り		
野村 行憲	盛岡市	巻頭言+会の声			日環境		PDS
野村 行憲	盛岡市	余計世話		余計世話	余計世話	余計世話	
日比野 利彦	都南村						
平野 三千代	盛岡市						
福田 健次	盛岡市	茶色の小瓶	MIX Now	MIX Now	茶房	茶房+MMM	
藤村 洋	盛岡市		茶房			特集	
本多 健一郎	盛岡市		私のML				
米谷 則美	盛岡市				会員便り (MM)		
前田 修悦	釜石市						茶房
真館 貞治	盛岡市						
松倉 拓次	都南村	自己紹介		茶房			
三浦 一之	盛岡市						
三浦 利昭	浄法寺町				会員便り		
三浦 吉範	盛岡市				Meet the M.		
三田 光男	盛岡市						
村上 誠一	盛岡市						
村上 弘行	盛岡市				会員便り		
村川 寿	柏市					Meet the M.	
望月 善次	盛岡市		Macと私		会員便り		
本館 康司	花巻市	自己紹介					
森 貞吉	盛岡市						
山田 真希	盛岡市						
山本 淳	千歳町						
香田 新二	盛岡市	自己紹介			日環境		
吉田 実	盛岡市						
吉村 弦	盛岡市						
和田 政男	矢巾町						



余計なお世話 ...by 野村行憲

Easy Access編...その1

もしもマウスが壊れたら...

最初から物騒なタイトルでお騒がせしますが、皆さん愛用のMacintoshのマウスが突然壊れたらどうなるか想像してみてください。Macintoshの場合、他のコンピュータと違ってKeyboardが壊れても致命的なことにはなりません、マウスが壊れると何も出来なくなります。

こんな時に役に立つのが、Systemと一緒に提供されている、EasyAccessというINITです。

このINITをSystem Folderに入れておくだけで、万が一のときにKey Boardがマウスの代りを努めるようになるのです。

前置きはこれくらいにして、早速その方法を解説します。

この機能をOnにするために、次のワザを使います。

Shift + ⌘ + Clear

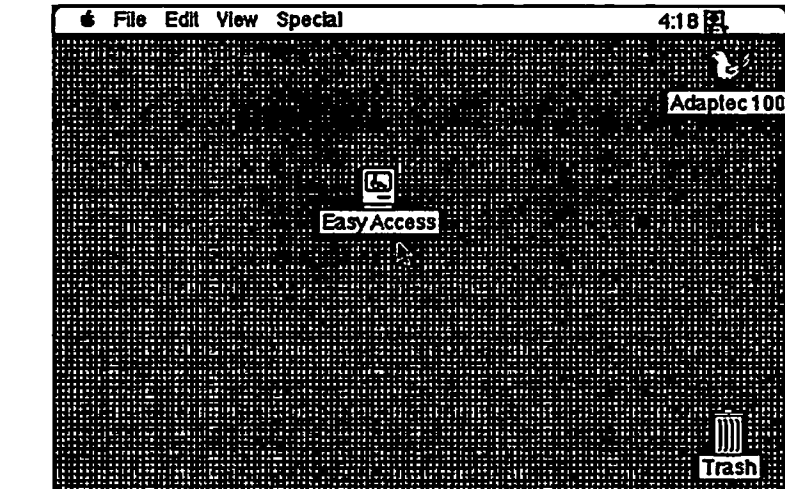
このKey操作でOnになります。
(Offにする場合も同じです)

これでテンキでマウスカーソルを操作できるようになります。

このときのテンキは5のキを中心として、2が↓、8が↑、4が←、6が→になります。さらに、1が左下というように8方向にマウスカーソルを動かすことが出来ます。

もう、気付いているとおもいますが、マウスボタンは5のキがシミュレートします。

これだけでも何とかなりますが、これではメニューの操作のときに5のキを押したまま2のキでポインタを下げるといったアクロバットの操



作を要求されます。これは不便ですねえ。

ところが、さすがはAppleです。ちゃんと便利なものがあります。テンキの0のキがマウスボタンのロックを行い、.(ピリオド)がリリースを行うようになっているのです。

つまり、メニューバーまでマウスのポインターを持って行ったら、0のキを押してマウスボタンを押したままの状態にします。(0を押したままにする必要はありません)そして希望のメニューアイテムの所へマウスポインタを動かして、ピリオドを押してマウスボタンをリリースするのです。

これで、もう、マウスの故障は恐くありませんね。

所で、マウスの故障には、次の2つのケースが多いようです。

- 1つ目はケーブルの断線
- 2つ目はボタンスイッチの不良

どちらも、不良な部品を取り替えば直るものですが、素人ではなかなか出来ませんし、販売店に修理を依頼してもマウス全体の交換になります。

私は今までに、自分のマウスのケーブル断線を自分でつなぎ、ある會員のMac-SEのマウスボタンのスイッチを交換しましたが、スイッチが200円位だったほかに費用は掛かりませんでした。但しSEのボタンスイッチはメーカーであるOMRONに該当する型番のものが無かったため、型番が近かったD2F-01Lというのを取り寄せて、そのスイッチのアームをむしり取って使いました。

また、某国産メーカー用のバスマウスも、配線を変えるだけで使用できますので、この変換アダプタを自作して万が一に備えています。(付いているだけで、使っていないマウスが結構まわりにあるので...)

この変換アダプタの作り方については、この欄にはふさわしくないので別の機会にします。

今年のMeet the Mac in Morioka

Macと温泉ツアー

昨年9月に開催したMeet the Mac in Morioka (略称 : MMM) が大変好評だったので、今年も同じ時期に開催しようと思っています。すでに東京からの参加者の一部から、温泉に一泊してオールナイトでやりましょとかりクエストも来ています。今年も、去年都合で参加できなかった人も期待しています。そこで、皆さんからアイデアやリクエストを募集します。会場や企画などのご意見をお寄せください。ふ、ふ、ふ、またマックの有名人と楽しいお酒が飲めるぞ。

会員名簿

Dick Harry	盛岡市	
Evelyn Harry	盛岡市	
Richard L. Lammers	盛岡市	
渡田 昌雄	和賀町	90MAC035
渡沼 清智	花巻市	
渡野 恵治	花巻市	
野木 健次	東京都	10ZZ0035
安保 淳一	盛岡市	
伊崎 誠一	盛岡市	
大河原 清	滝沢村	90MAC021
沖野 貴	二戸市	90MAC044
小沢 徹	盛岡市	90MAC029
桂川 茂彦	盛岡市	
兼平 信一	盛岡市	90MAC055
豊沼 まゆみ	盛岡市	90MAC051
菅野 卓矢	盛岡市	90MAC008
工藤 道雄	盛岡市	
館谷 研也	盛岡市	90MAC008
菅城 孝隆	盛岡市	90MAC018
小林 秀夫	北上市	
菅藤 武	盛岡市	90MAC009
菅藤 怜	盛岡市	
佐々木 幸司	盛岡市	90MAC033
佐々木 俊光	胆沢町	
佐々木 文雄	磐前町	
佐藤 晋人	盛岡市	90MAC010
狼橋 浩昭	北上市	90MAC043
渋谷 誠	盛岡市	90MAC047
白石 隆	都南村	90MAC039
菅原 健政	盛岡市	
杉村 栄一	盛岡市	90MAC036
鈴木 晃光	盛岡市	
鈴木 卓	軽米町	
淵川 昌男	盛岡市	
坂崎 博和	盛岡市	
高橋 晃	盛岡市	90MAC031
高島 浩一郎	盛岡市	90MAC012
武元 伸次	盛岡市	
田中 康司	盛岡市	90MAC007
谷口 和美	盛岡市	90MAC058
谷藤 幸夫	盛岡市	90MAC040
照井 恒	盛岡市	90MAC054
照井 芳夫	花巻市	90MAC026
徳宮 亘	花巻市	90MAC015
中野 賢司	盛岡市	90MAC011
中島 昭	流山市	90MAC003
西島 光彦	盛岡市	90MAC017
橋本 雅彦	八戸市	90MAC042
野村 行憲	盛岡市	90NOMURA
日比野 利彦	都南村	90MAC052
平野 三千代	盛岡市	90MAC019
榎田 健次	盛岡市	90MAC005
藤村 洋	盛岡市	90MAC028
本多 健一郎	盛岡市	90MAC025
米谷 剛美	盛岡市	90MAC037
前田 修悦	釜石市	90MAC059
真館 貞治	盛岡市	
松倉 拓次	都南村	90MAC032
三浦 一之	盛岡市	
三浦 利昭	浄法寺町	90MAC045
三浦 吉範	盛岡市	
三田 光男	盛岡市	
村上 誠一	盛岡市	
村上 弘行	盛岡市	90MAC049
村川 秀	柏市	90MAC001
望月 善次	盛岡市	
本館 康司	花巻市	90MAC013
森 貞吉	盛岡市	
山田 真吾	盛岡市	90MAC053
山本 洋	千恵町	90MAC034
吉田 新二	盛岡市	90MAC020
吉田 寅	盛岡市	
吉村 強	盛岡市	
和田 政男	矢巾町	

近々のIMF例会日程、3/8, 4/11(総会)

編集後記

白い花が出尽くしたので、赤や紫の写真を出すとカラーで印刷したくなります。いつの日にかー佐藤

とても早く終わった編集作業にはニッコリ。ラインで打ち出した表紙にはビックリ。レーザーライターにすら驚いているのに。それに比べて自分のプリンターにガッカリ。

-佐々木

いや〜今回の編集は楽しかったね。何と言っても原稿がよかった！渋谷さん有難うございました。次回もこんな感じで編集できればHappyですね。Simple is bestの編集をモットウとしている熊谷でした。

いつもながら、ページのタイトルには苦勞するな〜。ポストスクリプトのソフトを扱えないのは致命的ですね。今度はこれも...タカ

2ページでは書ききれない！後はマニュアルを読んでくらはい。ケン

す、凄いな...ライノタイプはやっぱり凄かった。こんなに奇麗なページに私の稚拙な記事が載るのはもっ

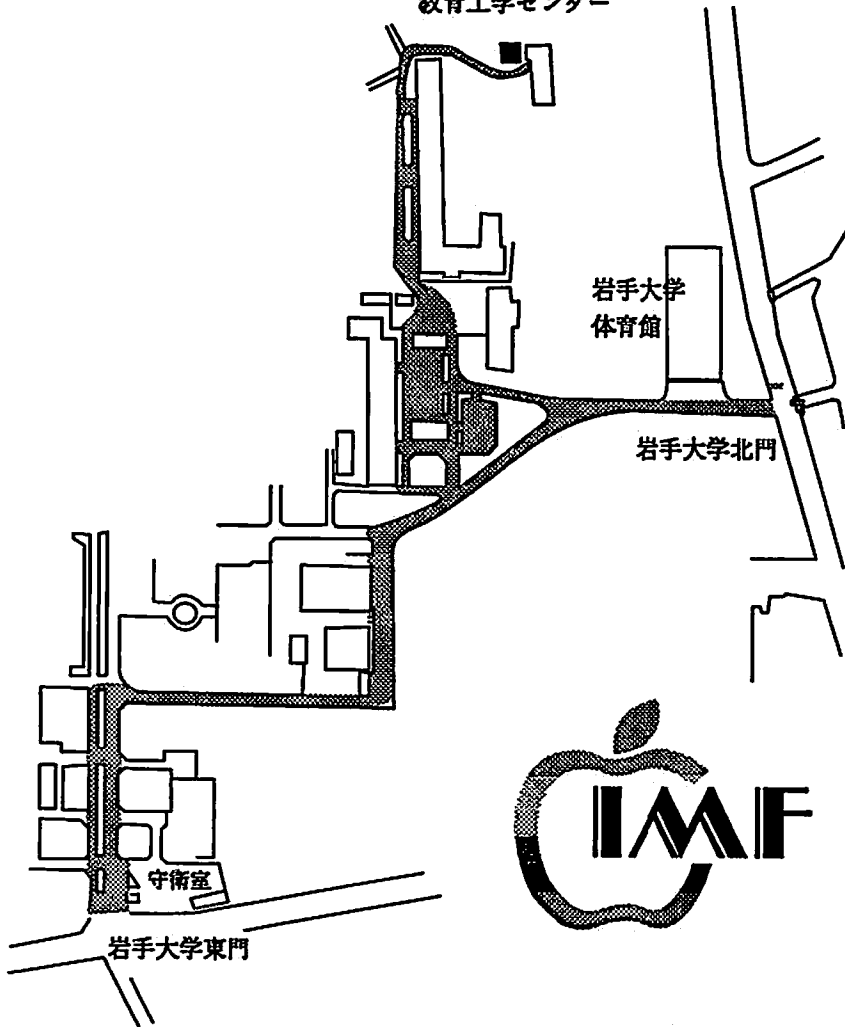
たいたいと思います。穴があったら入りたい...。最近の編集の皆さんの凝り方も目を見張るものがあります。私のような単純なレイアウトが恥ずかしくなります。本職の印刷屋さん顔負けの、素晴らしいページが一杯あります。始めのころとは格段の進歩だと思います。皆さんも創刊号あたりのもものと見比べて見るのも面白いと思いますよ。マックの日本語環境の整備が反映していると言えるのかもしれませんがね。...野村

Macを購入した当初は思っても見なかったDTPの世界にすっかりのめり込んでしまいました。おかげで雑誌や書類の見方(視点)が変わり「自分の作成した書類も少しは読みやすくなったかな」と、自己満足しています。

照井

一年間の積み重ねが随所に花開いた出色のできだと思えます。最終編集会議も素早く終わり、お茶を飲みにも行けました。万歳！徳富

IMF例会開催地
岩手大学
教育工学センター



「林檎」7号は...

ASLTalk
ByWord
Color Magician
Digital Darkroom
EG-Bridge
EG-Word
Freehand
Illustrator
MacPaint
MacVJE
NinjaTerm
PageMaker
QuarkXPress
SuperPaint
Sweet JAM
TurboJip
TurboWriter

等で作ったものをPageMaker 2.0
でまとめ、表紙はLinotronic 300/
1200 dpiで、その他はLaserWriter
II NTX-Jでプリントしました。

1990/2/8 第7号
発行 岩手Mac友の会
代表 野村行憲
盛岡市月が丘 1-1-36

非売品